

平成22年度青い羽根募金運営協議会開催

募金額過去最高をマーク

(社)日本水難救済会は、平成22年6月1日、海事センタービルにおいて平成22年度青い羽根募金運営協議会を開催した。(本協議会は、部外の有識者で構成され、募金に関する重要事項を調査審議するために置かれている。)

運営協議会における審議の様様

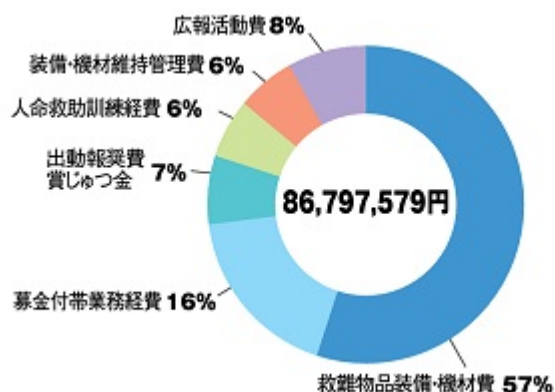


平成21年度の募金活動及び実績並びに使用実績

【主なもの】

- ◆強調運動に先駆けて6月29日に麻生総理を、金子国土交通大臣を表敬訪問し青い羽根を着用していただき、募金の協力を依頼したほか、翌日の閣議において全閣僚の皆様へ青い羽根を着用していただいた。
- ◆募金実績は約8,679万円で過去最高となった。
- ◆水難救済会支援自販機による募金が全体の約2割にも上った。
- ◆都営地下鉄、東京地下鉄(株)、(株)ゆりかもめ、江ノ島電鉄(株)、小田急電鉄(株)、相模鉄道(株)、京浜急行鉄道(株)、東京モノレール(株)各社の協力を得て駅構内に募金啓発ポスターを掲示した。

使用実績は次のとおり。



22年度の募金活動計画

【主なもの】

- ◆募金目標総額を約9000万円とする。
 - ◆「海フェスタ長崎～海の祭典2010長崎・五島列島～」の期間(7月17日～8月1日)において全国的に青い羽根の一斉着用キャンペーンを実施する。
 - ◆広報用ポスターの注目度アップのため、昨年に引き続き阪神タイガースの城島健司捕手に協力を得て行う。
 - ◆同ポスターを全国に配布するが、特に、海の前後の1週間にわたり東京メトロ約150ヵ所及び東京近郊私鉄の駅構内に掲示する。
 - ◆支援自販機の一層の拡大を進めていく。
- などであった。

委員からは、支援自販機の有効性を評価する意見があったほか、海事関係教育機関はもとより若年層への教育に着目した活動を展開する必要性等が指摘されたが、議題はすべて原案通り承認された。

(社)水難救済会は、今後とも青い羽根募金の認知度を一層向上させ、支援の輪を広げていくこととしている。